

卓越大学院プログラム
平成30年度採択プログラム中間評価
プログラム担当者アンケート調査（案）

- この調査は卓越大学院プログラム（注）の平成30年度採択プログラムの中間評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムに参加する皆さん（大学により各プログラムに選抜された学生）にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。

注 <卓越大学院プログラムとは>

「卓越大学院プログラム(WISE Program : Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)」(以下「本事業」という。)は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業である。

担当されているプログラムと、御自身についてうかがいます

I. 回答者の属性

問1 担当している大学・プログラム名・公募の領域

問2 年齢、性別についてご記入ください。

問3 プログラムとの関係（それぞれ一つを選択）

プログラムに参加した年	1. 2018（平成30）年度	2. 2019（令和元）年度	3. 2020（令和2）年度	4. 2021（令和3）年度		
エフォート 申請書に記載されたもの	1. 1割未満	2. 1割以上 2割未満	3. 2割以上 3割未満	4. 3割以上 4割未満	5. 4割以上 5割未満	6. 5割以上 6割未満
	7. 6割以上 7割未満	8. 7割以上 8割未満	9. 8割以上 9割未満	10. 9割以上	11. 採択された後にプログラム担当者になった	
エフォート 令和元年度の実績	1. 1割未満	2. 1割以上 2割未満	3. 2割以上 3割未満	4. 3割以上 4割未満	5. 4割以上 5割未満	6. 5割以上 6割未満
	7. 6割以上 7割未満	8. 7割以上 8割未満	9. 8割以上 9割未満	10. 9割以上		
本プログラムの学生に直接に接する頻度	1. 日常的	2. 週に1回程度	3. 月に1～2回程度	4. 年に1回～数回	5. 直接には接しない	
所属（本務）	1. 当該大学院・参画研究科・専攻等（プログラムの経費により雇用されている者を除く）	2. 当該大学院・参画研究科・専攻等（プログラムの経費による雇用）	3. 当該大学（1、2以外）	4. 他大学	5. 研究機関	6. 民間企業
	7. 政府・自治体	8. 国際機関	9. その他			

↓
具体的に書いてください

Ⅱ. プログラムへの関与

問4 このプログラムではどのようなことを担当されていますか(あてはまる項目すべてをクリック)

1	単独で講義を担当
2	単独で演習を担当
3	協同講義、演習への参加
4	個別学生の研究指導
5	学生のメンター
6	留学プログラム

7	学生募集・入学者選抜
8	就職支援
9	プログラムの企画、カリキュラムの作成
10	インターンシップ
11	広報

別に特に担当されていることがあれば、ご記入ください

具体的に書いてください

プログラムの実施状況について感想をうかがいます

Ⅲ. 指導等の内容

問5 このプログラムで、先生は下のような指導を行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。(それぞれ該当する回答をクリック。カリキュラムにない場合や今後行う場合は「行っていない」に該当。)新型コロナウイルス感染症の影響前後のそれぞれについて回答してください。

		どの程度の頻度で行っているか ※							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
指導学生以外の学生への指導	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				
主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				
産学共同研究の場への学生の参画	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				
研究室ローテーションの受け入れ ※名称は問わない(他研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。)	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				
プロジェクト形式による授業や課題	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				
メンター等としての授業外のサポート	コロナ禍前	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
	コロナ禍後	1	2	3	4	5	6	7				

※「研究室ローテーション」については、実施した期間について、「1. 1年のうち1週間程度」「2. 1年のうち2週間程度」「3. 1年のうち1ヶ月程度」「4. 1年のうち2ヶ月程度」「5. 1年のうち3ヶ月程度」「6. 1年のうち半年程度」「7. 受けていない」から選択

IV. 学生の学修環境の整備状況とその有効性

問6 このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また1～3を選択した場合、それは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック。プログラムのカリキュラムにない場合や今後行う場合は「されていない」に該当。)

	整備されているか				有効か			
	十分に されている	ある程度 されている	されてい ない	分からな い	有効	ある程度 有効	あまり有 効ではな い	有効では ない
企業、政府機関など学外者からの指導	1	2	3	4	1	2	3	4
キャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー 等	1	2	3	4	1	2	3	4
奨励金や授業料免除等大学からの金銭的支援	1	2	3	4	1	2	3	4
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生の交流スペース、合同のセミナー等	1	2	3	4	1	2	3	4
外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会	1	2	3	4	1	2	3	4
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	1	2	3	4	1	2	3	4
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）	1	2	3	4	1	2	3	4
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ※1	1	2	3	4	1	2	3	4
※1 「十分にされている」、「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。								
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	1	2	3	4	1	2	3	4
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）	1	2	3	4	1	2	3	4
本プログラムの中での留学	1	2	3	4	1	2	3	4
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動 ※2	1	2	3	4	1	2	3	4

※2 「十分にされている」、「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。

新型コロナウイルスの感染症の影響があれば記述してください。また、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われたことあれば、その内容を記述してください。

V. プログラムの有効性

問7 このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。

	非常に有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
高度な専門的知識・研究能力	1	2	3	4
高い国際性	1	2	3	4
専門以外の分野の幅広い知識	1	2	3	4
物事を俯瞰し本質を見抜く力	1	2	3	4
自ら課題を発見し解決に挑む力	1	2	3	4
独創的な能力	1	2	3	4
チームのマネジメント力	1	2	3	4
企画立案、関係者との調整、統率する能力	1	2	3	4
他者と協働する力	1	2	3	4
その他（具体的に： ）	1	2	3	4

VI. プログラムの運営・管理

問8 運営・管理の面で、以下の点についてどう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わな い
産業界、行政機関、NPO等によるプログラムへの参画と就職先に関する情報提供が行われている	1	2	3	4
学長のリーダーシップが発揮されている	1	2	3	4
大学本部による関与・サポートを含めた連携する民間企業と「組織」対「組織」の連携・協力体制が構築されている	1	2	3	4
プログラムの継続・発展を図るための民間企業等による積極的な投資が行われている	1	2	3	4
大学と連携先機関との若手教員の人事交流及びそれを促進する仕組みが構築されている	1	2	3	4
コストを意識した運営がなされている	1	2	3	4
学内外へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている	1	2	3	4

VII. プログラムに対する印象

問9 以下の点について、どう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています	1	2	3	4
連携先機関と共通理念に基づいた教育が行われている	1	2	3	4
既存の研究科等や機関の枠を超え、博士課程前期・後期一貫した体系的な教育課程の編成による高度な研究を通じた組織的な教育が行われている	1	2	3	4
プログラムを通じて授与される学位の質保証が適切に行われている	1	2	3	4
多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている（一部の教員に負担が集中しているような状態になっていない）	1	2	3	4
プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である	1	2	3	4
大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である	1	2	3	4
優秀な学生が多数入学している	1	2	3	4
今後優秀な学生をより多く獲得できる	1	2	3	4
優秀な社会人の博士学位の取得促進が行われている	1	2	3	4
学生はプログラムの意図を良く理解している	1	2	3	4
学生にとって、将来の進路が明確になっている	1	2	3	4
学術研究だけでなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す見込みがある	1	2	3	4
このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている	1	2	3	4
このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある	1	2	3	4
これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい	1	2	3	4

プログラムの改善のための方策についてうかがいます

VIII. プログラムの改善

問10-1 このプログラムにおいてあなたが担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケート(紙面やパソコン上のデータとして記録・保存をしているもの)を行っていますか。下記から一つ選択してください。

1	担当する全ての役割等において実施している
2	担当する一部の役割等において実施している
3	実施していない

【1または2と回答した方のみお答えください】

問10-2 上記評価やアンケートの結果を踏まえ、具体的に改善を図った内容があれば、その内容についてお答えください。

問11 以下の点について、どう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる(得られそうである)	1	2	3	4
学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている(二重の負担になっていない)	1	2	3	4
プログラムに参画している学生は所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えられる	1	2	3	4
学生の将来の進路に不安がない	1	2	3	4

全般的なご意見をうかがいます

問12 この質問票でお尋ねした点、あるいは、それ以外にも、このプログラムについてお考えがあれば、ご意見を自由にお書きください

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 （ はい ・ いいえ ）

調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。